

# テニュアトラック普及・定着事業

平成25年度予算案：5,860百万円  
(平成24年度予算額：7,508百万円)

※テニュアトラック制とは...公正で透明性の高い選抜により採用された若手研究者が、審査を経てより安定的な職を得る前に、任期付きの雇用形態で自立した研究者として経験を積むことができる仕組み

## 現状・課題

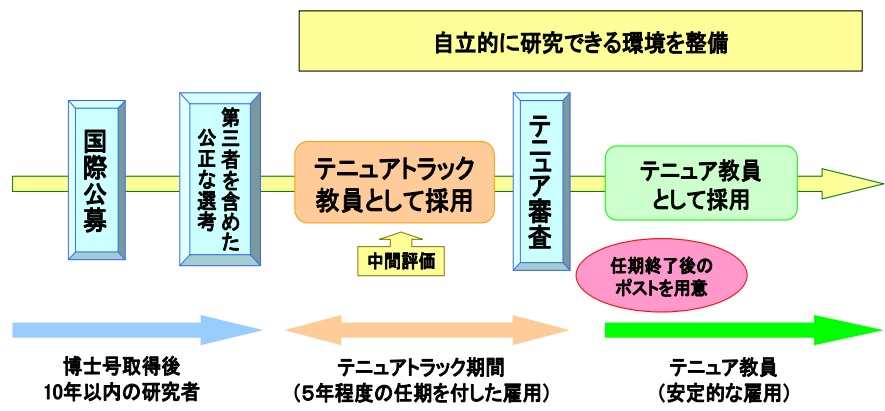
- 優れた研究成果をあげた研究者の多くは、若い時期に、その成果の基礎となる研究を行っている。(ノーベル賞受賞のきっかけとなった論文は、30代に多い)
- 優れた研究者を養成するためには、若手研究者のポスト確保とキャリアパスの整備が必要。
- 若手研究者は、**自立して研究に専念できる立場・環境にない者が多い。**
- 優れた研究者を国内外から確保するためには、**客観的で透明性の高い手続が必要。**

## 第4期科学技術基本計画

(平成23年8月閣議決定)

テニュアトラック制の教員の割合を、全大学の自然科学系の**若手新規採用教員総数の3割相当**とすることを旨とする。

## 【テニュアトラック制のイメージ】



## 目的・事業内容

テニュアトラック制により、選ばれた若手研究者が研究に専念できる環境を整備し、国として**優秀な若手研究者層の構築**を支援

### 【A. 機関選抜型】

**新規支援者 100名 (H24 165名)**

対象機関：大学、独法研究機関等

事業期間：5年間(テニュアトラック教員に対する支援は2年間)

内容：テニュアトラック教員の研究費(人件費への充当は不可)  
900万円/人(採用1年度目)  
※採用2年度目は600万円/人

この中から特に優れた者30人を選抜して、上乘せ支援

### 【B. 個人選抜型】

**新規支援者 30名 (H24 28名)**

※機関の長が推薦する者から選考

対象機関：「A. 機関選抜型」で選定された機関

事業期間：5年間

内容：特に優れたテニュアトラック教員に対し、研究費として1,400万円/年を機関に対して上乘せ支援  
※人件費に充当可能

※平成23年度より旧科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」を本事業に統合